



新春特 プロ野球オリックス

佐藤 一球入魂

聞き手:岩藤大地郎さん

小さい頃は泣き虫でした

—— あらためましてオリックスバファローズからのドラフト2位指名おめでとうございます。このたび、置戸町出身者として初のプロ野球選手が誕生したことを記念して、佐藤さんご本人にいろいろとお話をうかがっていきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

佐藤 ありがとうございます。こちらこそよろしくをお願いします。

—— まずは、野球を始めたきっかけからおしえてください。

佐藤 積極的に自分からやりたいと思ったわけではないのですが、小学3年のときに、両親に勧められて置戸ジャガーズに入団しました。

—— 自分ではどんな少年だったと思いますか？

佐藤 小さい頃は本当に泣き虫でした。泣けば何でも許されると勘違いしていた感がありました。今ではもちろんそんなことはありませんが(笑)。

—— これまでの野球人生で、最も印象的だった出来事をおしえてください。

佐藤 高校3年最後の夏で甲子園に出場できなかったのも悔しい思い出ですが、それよりも、大学2年秋の(道内)王座決定戦で東農大網走に逆転負けを喫したことが苦い思い出ではありますがとても印象に残っています。この試合を境にして、「このまま

じゃ駄目だ」とチームも私個人も大きく変わることができたと思っています。



岩藤大地郎 (いわふじ だいじろう)

置戸町生まれ。置戸ジャガーズ、置戸中学校、北見柏陽高校それぞれで佐藤投手とバッテリーを組んだ経験を持つ。北海学園大学在学中、22歳。

何よりも野球が好き！

—— プロを目指す決意を固めたのはいつですか？

佐藤 大学3年の冬です。大学野球日本代表候補宿に参加した際に、監督から「プロを目指してやってみろ」と背中を押されたのがきっかけです。それまで、大学卒業後も(社会人リーグなど)野球を通じて自分を高めたいと考えてはいましたが、プロは